

第2回 構造改革シンポジウム 開催

平成24年9月21日に企画委員会主催「第2回構造改革シンポジウム」がタイム24ビルにおいて開催され、86名が参加した。

本シンポジウムは、事業環境変化に対応するための業界レベルの課題への取組を進めるJISAの活動からは視点を変えて、自社改革の必要性の認識をもった会員各社に、具体的な取組のヒントを提供することを狙いとして開催している。

プログラム

開会挨拶 企画委員会委員長 島田 俊夫

基調講演

「外から見た情報サービス業界の可能性と課題
ー チャンスをつかむための改革ベクトル ー」
NRI アメリカ 取締役社長 井上 純一 氏

事例① 「富士通におけるSE人材と育成フレームワーク」
富士通(株) 統合マーケティング本部 人材開発部
統括部長 平松 聡 氏

事例② 「ビジネス創出人材育成と取組み事例のご紹介」
日本ユニシス(株) ビジネスサービス事業部
事業部長 齊藤 昇 氏

事例から学ぶコミュニケーションタイム

次回予告

当日は、まず、島田企画委員会委員長が挨拶に立ち、前回と同じく参加者との間で認識を共有することを狙いとして構造改革の必要性を説明した。

挨拶のなかで、島田委員長は、我々は①提供価値、②リソース、③顧客変化の3点で重大な岐路に立っていることを強調した。提供価値は、我々が今後求められる能力は、先を照らす力であるのに対し、現在提供できるのは求められたものを実装する能力であること、また、リソースは、人が資源の産業であるにもかかわらず、いくつかの要因から人気低迷していること、顧客変化は、顧客の収益獲得先は海外にシフトしているのに対して、国内中心に発想から抜け出せないことである。

こうした認識をふまえて、本シンポジウムは、

- (1) 他者を知り、気付きを惹起する
- (2) 行動可能であるという感覚を持つ

を狙いに開催したものであるとして、座して待つては変化に耐えられないことと、身近

な例を参考に自ら行動を起こすことの重要性を前回に続いて訴えた。

講演では、NRI アメリカ取締役社長 井上純一氏による基調講演「外から見た情報サービス業界の可能性と課題 — チャンスをつかむための改革ベクトル —」をはじめ、上の囲みに掲げた2点の事例が紹介された。



井上氏は、野村総合研究所でのキャリアに加え、JISA においても知的財産権法部会長、法制度部会長を歴任され、当業界の実情をよくご存じである。講演では、米国現地法人の経営に携わってこられた目で、国内発想のルール主義では、様式化と同質化から過剰なコンプライアンスに陥って閉塞感が満ちている、視野を海外に移し、異質なマネジメントを受け容れて、チャンスに挑もうと呼びかけられた。当業界の法務分野

を長きに渡って手掛けられてこられただけに説得力があった。

事例講演では、富士通の平松氏から、同社の SE 人材育成策を説明した後、今後求められる SE の人材像から新たな SE 育成プログラムについて紹介された。

日本ユニシスの齊藤氏からは、同社の自主的研修プロジェクトである「プリンシパルプロジェクト」を説明した後、そのプロジェクトから生まれた「スマートタクシー配車システム」が紹介された。

これらの事例の紹介にあたっては、上述の狙いを果たすための試みとして、前回同様、講演時間は短くし、事例毎に用紙を配布して質問の記入を依頼し、これを取りまとめた「事例から学ぶコミュニケーション」と銘打った質疑応答を行った。

(田中)